

令和 6 年度事業報告書

1) 公益財団法人名古屋国際センターの概要

1 設立年月日

昭和 59 年 8 月 1 日

2 定款に定める目的

名古屋を中心とした地域の歴史、文化、その他の特性を生かして、市民の国際理解及び多文化共生を推進する事業を行うことにより、市民レベルの相互理解に基づく多文化共生社会の形成を促進し、誰もが共に豊かに安心して暮らせる社会の実現に努め、もって普遍的な国際平和に寄与することを目的とする。

3 定款に定める事業内容

(1) 公益目的事業

- ア 市民に対して外国に関する情報等を提供するとともに、外国人等からの生活全般に関する相談に応じる事業
- イ 語学や多文化共生等に関する講座、研修会等を開催する事業
- ウ 地域の国際化の推進に取り組む団体等との協働により講座等を開催するとともに、その活動を支援する事業
- エ 地域に暮らす外国人と市民との相互理解を図るイベント等を行う事業
- オ 留学生に対する宿舍の提供、相談等の支援を行うとともに、留学生と市民との交流を図る事業
- カ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(2) 公益目的事業の推進に資するための事業

- ア 名古屋国際センター等の国際交流施設の管理及び運営
- イ その他公益目的事業を推進するために必要な事業

4 主たる事務所

愛知県名古屋市中村区那古野一丁目 47 番 1 号

2) 令和 6 年度事業報告書

(公財)名古屋国際センター（以下「センター」という。）は、名古屋を中心とした市民レベルの国際交流及び国際協力を行うことにより、相互理解に基づく多文化共生社会の形成を促進し、誰もが共に豊かに安心して暮らせる社会の実現を目指し、各種事業を実施した。

事業の実施にあたっては、令和4年度から8年度の計画である「第3次名古屋市多文化共生推進プラン」を踏まえて行った。

また、令和6年度は財団設立40周年に当たるため、「財団設立40周年記念事業」を実施した。

I 指定管理事業

国際化推進事業

1 情報収集提供事業

(1) 情報サービスコーナーの運営

情報カウンターでは、外国人には生活情報等（医療、日本語学習、出入国関係など）を日本語、英語はじめ 11 言語及び「やさしい日本語」で提供し、日本人には主に、ボランティア活動、国際交流・協力に関する情報提供を行った。

名古屋市の「一元的相談窓口」として、多言語による問い合わせに対しては、通訳スタッフのほか遠隔通訳サービスや機械翻訳等も活用するとともに、相談者と公的機関をセンターの通訳を介してつなぐ三者通話（トリオホン）やタブレット端末によるテレビ電話通訳、公式 LINE 通話及び各種オンラインなど多様な方法で対応した。

また、担当職員や通訳スタッフを対象に研修を行い、相談対応の質の向上に努めた。

情報サービスコーナー入館者数 7,660 名[R5:7,201 名]、問い合わせ件数 10,264 件[R5:10,468 件]、トリオホン（3 者通話システム）実施件数 216 件[R5:274 件]。

(2) ライブラリーの運営

ア 資料室の運営

海外紹介図書、絵本、国際理解・国際協力及び多文化共生に関する図書をはじめ、海外の新聞、雑誌等や日本語教材、日本紹介図書等を配架し、閲覧・貸し出しに供した。また、海外紹介、日本紹介、国際理解、日本語学習の視聴覚資料を提供した。

ライブラリー入館者数 18,524 名[R5:15,335 名]、図書貸出冊数 4,882 冊[R5:4,303 冊]、CD・DVD 貸出点数 142 点[R5:131 点]。

イ 親子絵本コーナーの運営

絵本を通じて海外の文化に触れるとともに、外国人の子どもの母語保持・習得に役立てるため、海外の絵本の読み聞かせができるコーナーを設置し、日本及び海外の絵本を配架した。

ウ 交流スペースの運営

国際交流・協力、多文化共生等の分野で活動する団体や若者グループが、打ち合わせや情報交換、イベントなどに利用できる場を提供した。

利用者数延べ 1,316 名 [R5:1,051 名]、利用件数 172 件 [R5:137 件]、登録団体数 43 団体 [R5:43 団体]。

エ ライブラリー特別企画

ライブラリーの図書や映像資料を活用したイベントを実施した。

(ア) 外国語で楽しむ絵本の会

外国語の絵本の読み聞かせを通して、外国文化に触れる機会を提供したほか、外国人ボランティアが自国の歌や遊びなどを紹介した。市内の図書館等にも出向いて同事業を実施し、広くセンターの PR に努めた。

開催日及び会場	名古屋国際センター：原則毎月第2・第4日曜日 中村図書館：6月1日、11月2日、3月1日
対応言語	英語、中国語、ハングル、スペイン語、フィリピン語、ネパール語等（日本人ボランティアによる日本語通訳付き）
参加者数	延べ246名（うち外国人35名）[R5:延べ325名（うち外国人38名）]

(イ) 絵本のひろば

「外国語で楽しむ絵本の会」の夏休み拡大版として、外国人ボランティアによる「動物・国を代表するもの」に関する絵本の読み聞かせと、翻訳アプリを使って絵本を読む特別企画を行った。

開催日	8月18日（3部制）
参加者数	延べ35名 [R5:延べ24名]

(ウ) ライブラリーで世界を学ぼう！

広く一般市民を対象に、ライブラリーを活用しながら外国文化に触れるイベントを実施した。今年度は台湾へ高校留学していた講師が、現地の生活やポップカルチャーについて紹介を行った。

開催日	6月2日
参加者数	8名（定員20名）[R5:8名（定員15名）]

(エ) ライブラリー子ども企画

子どもたちを対象にライブラリーの図書や子ども版「ニック・ニュース」を活用し、異文化や地球の課題への関心を深めてもらうことを目的に、①「世界のいただきますをつくってみよう!」、②クイズラリーを実施した。

開催日	①3月15日 ②夏休みクイズラリー：8月1日～8月31日 冬休みクイズラリー：12月20日～1月31日
参加者数	① 15組 34名（定員15組） ② 夏休み：46名 冬休み：35名 延べ115名 [R5:延べ77名]

(オ) NIC ビブリオトーク

「私の人生を変えた本」をテーマに、おすすめの本を紹介し合い、参加者同士で本を通じた交流を行った。

開 催 日	12 月 1 日
参 加 者 数	10 名（定員 15 名） [R5:8 名（定員 15 名）]

オ 本のリサイクルコーナーの運営

古くなったペーパーバックや海外雑誌等を市民に提供する機会として、ライブラリー内に「本のリサイクルコーナー」を常設した。

同コーナーで集めた募金を“世界寺子屋運動”名古屋実行委員会に寄付し、国際協力等に役立てたほか、ライブラリー図書の購入に充て、利用者サービスの向上に努めた。

(3) 社会見学の受入れ

中学生から大学生まで幅広く施設見学を受け入れ、センターの事業を紹介するとともに、グローバル人材、多文化共生や国際理解・協力への理解を深めるためのきっかけづくりを行った（285 名、28 件 [R5:137 名、18 件]）。

(4) 留学ガイダンス

情報サービスコーナーにて留学や奨学金に関する問い合わせに対応したほか、各国政府機関が発行する留学パンフレットの配架、在名古屋米国領事館との共催事業「アメリカ大学・大学院 留学フェア 2024」の実施などにより最新の留学関連情報を提供した。

(5) 行政文書翻訳

名古屋市からの依頼により、各種案内文や申請用紙等の翻訳を行った。

件 数	218件 [R5:177件]
対 応 言 語	ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語（計9言語）

2 相談事業

(1) 海外児童生徒教育相談

家族の海外勤務による出国・帰国時の編入学等に関する相談や日本に在住する外国人児童・生徒の教育に係る相談に、関係機関・団体等と連携して対応した。

開 催 日	毎週水・金・日曜日 午前10時～12時、午後1時～5時
件 数	430件（343名） [R5:477件（390名）]
対 応 言 語	日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語（計11言語）
対 応 方 法	来館、電話、メール、オンライン

(2) 外国人行政相談

ア 外国人行政相談

市政等の行政に関する問い合わせについて、相談員が情報提供や相談に対応した。
また、区役所窓口で日本語に不案内な外国人に対して、トリオホン（3者通話システム）による通訳サービスを行った。

件 数	970件（949名）〔R5:738件（719名）〕 ※この他にトリオホン216件〔R5:274件〕
対 応 言 語	日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語（計11言語）
対 応 方 法	来館、電話、メール

イ 外国人のための行政書士による相談

在留資格、国籍、起業などの各種手続き等について、愛知県行政書士会の行政書士が無料で相談に応じた。

開 催 日	毎週水・日曜日 午後1時～5時
件 数	259件（258名）〔R5:255件（252名）〕
対 応 言 語	日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語（計11言語）
対 応 方 法	来館、電話、オンライン

ウ 名古屋出入国在留管理局による相談

出入国手続きや在留資格の更新・変更等について、名古屋出入国在留管理局の職員が相談に応じた。

開 催 日	毎月第4土曜日
件 数	28件（29名）〔R5:29件（29名）〕
対 応 言 語	英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語（計8言語）
対 応 方 法	来館

(3) 外国人無料法律相談

結婚・離婚、在留資格、交通事故や労働問題等、日本の生活で生じる法律問題について、愛知県弁護士会の弁護士が無料で相談に応じた。

開 催 日	毎週土曜日 午前10時～12時30分
件 数	147件（133名）〔R5:157件（120名）〕
対 応 言 語	英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語（計4言語）
対 応 方 法	来館、電話、オンライン

(4) 外国人のための税理士による無料税務相談

名古屋税理士会との共催により、確定申告書の書き方を学ぶセミナー及び税に関する質疑応答を、通訳を介して実施した。

開 催 日	2月22日
参 加 者 数	20名（定員50名） [R5:24名（定員50名）]
対 応 言 語	英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語（計4言語）

(5) 外国人こころの相談

外国人が日本の生活で抱く不安や悩み等を解消するため、母国で資格や経験のある相談員が通訳を介さずに相談に応じた。

件 数	634件（240名） [R5:662件（265名）]
対 応 言 語	英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語（計4言語）
対 応 方 法	来館、電話、オンライン

(6) ピアサポートサロン

外国人が孤独感を抱え、精神的に不安定になることを未然に防ぐため、仲間や居場所づくりのほか、悩みを共有する場となるサロンを、「外国人の子どもと保護者のための進路ガイダンス」にて保護者を対象に実施した。

開 催 日	7月27日
参 加 者 数	17名 [R5:24名]

(7) 外国人健康相談

外国人住民が健康で安心して暮らせるよう、NIC 日本語教室や外国人ワンストップ総合相談会にて、外国人住民を対象に健康に関する啓発や健康・福祉に関する相談の場を設けた。また、外国語で受診可能な医療機関等、健康に関する情報提供を情報サービスコーナーにて随時行った。

開 催 日	6月23日、9月29日、11月3日、2月23日、3月16日、通年
参 加 者 数	延べ415名

(8) 難民相談

（公財）アジア福祉教育財団難民事業本部との共催で、インドシナ難民定住者、条約難民及び難民認定申請者等のための生活相談、保護措置等について相談に応じた。

開 催 日	毎週木曜日（事前予約制）
件 数	238件（115名） [R5:401件（221名）]
対 応 言 語	英語等

(9) 外国人の子どもと保護者のための進路ガイダンス

外国人の子どもと保護者を対象に、中学卒業後の進路に関する情報提供や相談に対応するガイダンスを教育関係機関等の協力を得て実施した。日本の教育制度に関する説明や、大学生や社会人による体験発表、高等学校・専門学校・教育委員会等による個別相談会を実施した。

開 催 日	7月27日
参 加 者 数	108名（定員80名） [R5:73名（定員80名）]
対 応 言 語	日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、

	フィリピン語、ベトナム語、ネパール語（計8言語）
--	--------------------------

(10) 外国人生活相談出張サービス

センター職員と相談員が、外国人住民が集まりやすい場所に出向き、生活全般や高校進学・就学等について相談に応じた。

開催日	①4月10日、②11月10日、③2月21日
件数	延べ18件（18名） [R5:延べ28件（27名）]
会場	①日本語教室「まるいけスマイル」（市営住宅丸池荘集会所/港区） ②ウクライナ避難者支援「大交流会」（三河湾リゾートリンクス/西尾市） ③外国人向け子育てサロンHoney Bee（南区役所/南区）

(11) 外国人ワンストップ総合相談会

関係専門機関・団体等の協力を得て、在留資格、労働、社会保険、住宅、子育て、子どもの進路、日本語学習等の相談にワンストップで対応する相談会を実施した。

開催日	①9月29日 ②3月16日
参加者数	①39件（32名）②43件（32名） 延べ82件（64名） [R5:96件（101名）]
対応言語	日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語（計11言語）

(12) 相談事業における関係機関との連携

教育、生活支援等を行っている専門機関・団体と具体的な相談事例の情報・意見交換を行い、連携を強化するとともに外国人支援の充実を図った。

団体・機関	あいち産業振興機構、愛知労働局、外国人ヘルプライン東海、社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会、住まいサポートなごや、中村年金事務所、名古屋外国人雇用サービスセンター、名古屋市健康福祉局、名古屋市子ども青少年局、名古屋市財政局、名古屋出入国在留管理局、名古屋市立大学大学院看護学研究科、法テラス愛知、南区役所、中川区エリア支援保育所、中村区エリア支援保育所、なごや子ども応援委員会、子どもの権利相談室「なごもっか」、精神保健福祉センター「ここらぼ」、仕事・暮らし自立サポートセンター、子ども・若者総合相談センター、名古屋市重層的支援体制整備事業 他
-------	--

(13) 大規模災害発生時における外国人市民の相談支援事業

巨大地震注意情報の発表に対して、「災害多言語支援センター」を立ち上げた。

期間	8月8日（木）～8月15日（木）
内容	・南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を多言語でセンターのウェブサイト、フェイスブックに掲載 ・南海トラフ地震臨時情報に関連する問い合わせ対応

3 広報出版事業

(1) 地域の国際化推進のための情報発信「NIC NEWS Web」

異文化や地球の課題への理解促進、多文化共生の周知・啓発のため、センター主催イベント、ボランティア活動等の情報をウェブサイトに掲載し、発信した。

(2) ウェブサイト等による情報発信

ア 多言語によるウェブサイトでの情報発信

センターの事業紹介や生活・行政・防災情報などを、英語はじめ多言語でウェブサイトに掲載し、広く発信した。(アクセス 850,258 件[R5:783,007 件])。

イ SNSでの情報発信

ウェブサイトに掲載した情報や市政情報などを、フェイスブック、X (旧ツイッター)、インスタグラムなどのソーシャルメディアを活用し、幅広く発信した。

ウ メールマガジンでの情報配信

ウェブサイトに掲載した情報等をメールマガジンで毎月配信し、センター事業のPRに努めた。

配信件数 52,445 件[R5:52,433 件]。日本語、英語、中国語、ポルトガル語の4言語で配信。

(3) 子ども版「ニック・ニュース」の発行

子どもたちから地球市民意識を養うため、日々の暮らしと世界とのつながりを考える事例や国際協力・多文化共生のヒント等をテーマに取り上げ、夏と冬の年2回、各70,000部発行した。

市内小学校、図書館、児童館、県内国際交流協会等へ配布。

＜テーマ＞ 夏号「世界のシンボル大集合」、冬号「チョコレートの未来を守ろう！！」

(4) 「名古屋生活ガイド」の発行

生活に関する基本情報や各種手続きの窓口・相談先等を掲載した「名古屋生活ガイド」(デジタル版)を作成し、「外国人転入者向けウェルカムキット」に同封して配布するとともに、センターのウェブサイトに掲載した。

4 研修事業

(1) 日本語学習支援活動者向け研修

ア 日本語ボランティアシンポジウム

東海日本語ネットワーク（TNN）と共催で、日本語学習支援の充実のため、地域で活動する日本語教室の情報交換と連携を図るシンポジウムを実施した。

＜テーマ＞ライフステージと日本語

＜基調講演＞「ライフステージによりそう日本語教育：地域で広がる学び合い」

講師：松尾 慎 氏（東京女子大学教授・Villa Education Center 代表）

＜パネルディスカッション＞「日本で暮らしてきて思うこと」

コーディネーター：松尾 慎 氏

パネリスト：伊藤 クリスティーナ 氏（Bri Asia 合同会社 代表社員）

バスネット サグン 氏（愛知県立明和高等学校夜間定時制課程 母語支援員）

徳森 エリカ 氏（公益財団法人名古屋国際センター 多言語スタッフ）

木下 貴雄 氏（外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト 代表）

開 催 日	12月7日
参 加 者 数	160名（定員200名） [R5:180名（定員200名）]

イ 日本語ボランティア研修

在住外国人や地域の日本語教室に関心を寄せてもらえるよう、無関心層を主な対象として実施。著名人をゲストに迎え、トークショー形式で地域の日本語教室の役割ややりがいについて知る機会とした。配布資料として、名古屋市の体制整備事業の説明やボランティア日本語教室の紹介するリーフレットを作成し、より理解を深めた。

開 催 日	10月14日
テ ー マ	村雨辰剛トークショー「にほんごでつながろう」 地域日本語教育普及啓発～だれもがくらしやすい まちをめざして～
参加者数	202名

(2) 地域の国際化セミナー

国籍や文化、生活習慣、来日理由など多様な背景を持つ外国人住民と「一人の人間」として向き合い、共に地域をつくっていくために大切なことは何かを考えた。

＜テーマ＞ 映画から考えよう！～多様な背景を持つ人々と“向き合うこと”～

＜映画鑑賞＞ 映画「フィリピンパブ嬢の社会学」鑑賞 ※日本語版（114分）

＜対 談＞ 田村 太郎 氏（一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事）

中島 弘象 氏（「フィリピンパブ嬢の社会学」原作者）

＜パネルトーク＞ 「だれもが暮らしやすいまちづくりとは」

ファシリテーター：田村 太郎 氏

パネリスト：中島 弘象 氏

外国人ゲスト：立石 ジョゼ 政敏 氏（ブラジル出身）

グエン ティ キン アイン 氏（ベトナム出身）

開 催 日	12月14日
参 加 者 数	174名（うち外国人9名）（定員150名） [R5:57名（うち外国人13名）（定員100名）]

5 国際交流・国際協力事業

(1) NIC 地球市民教室の運営

登録している外国人講師は、114 名（延べ 116 名、35 か国・2 地域）。

ア NIC地球市民教室

在住外国人を講師として登録し、学校や非営利団体等からの依頼を受けて、母国の文化や日本での生活の様子などを伝える講座を実施した。また、名古屋市教育委員会主催「名古屋土曜学習プログラム」にも参加した。

講 師 派 遣	111件（延べ206名・1団体） [R5:108件（延べ180名・1団体）]
「名古屋土曜学習プログラム」 学校・開催日・参加者数	①中小田井小学校 6月22日、69名 ②山田小学校 10月19日、75名

イ 発見！体験！地球市民キャンパス

主に若者（学生）を対象に、参加型の学習を取り入れた「NIC 地球市民教室」のプログラムを体験できる機会を提供し、自分や社会が多様性についてどのように向き合っていくべきかを考えた。

開 催 日	①5月24日、6月21日、7月12日 ②11月12日、11月19日、12月3日
対 象	①名古屋市立大学「地域特色科目」受講者 ②愛知大学「共通教育科目」受講者
受講者数	①40名 ②40名 計80名

ウ 講師の新規登録及び研修

新規登録講師を公募し登録を行ったほか、すべての登録講師を対象に研修を実施した。

(ア) 講師登録・オリエンテーション

新規登録講師を公募し、登録を行った。オリエンテーションでは、「NIC 地球市民教室」の概要と講演のコツを学んだ。

開 催 日	①9月7日 ②3月12日
新規登録者数	①3名 ②8名 計11名 [R5:17名]

(イ) 講師のスキルアップ研修

全ての登録講師を対象に、講義・講演に必要な知識やコツを学ぶ研修を行った。

開 催 日	①9月7日 ②3月12日
参 加 者 数	①10名 ②13名 計23名 [R5:45名]

(2) 名古屋市の姉妹友好都市との周年に併せた事業

ロサンゼルス市現地から観光や街並みなどの情報を届けるオンライン中継や、名古屋との暮らしの違いを紹介するトークショーを開催し、ロサンゼルス市への理解を深め今後の更なる交流へのきっかけづくりを行った。

開 催 日	9月21日
参 加 者 数	83名（定員50名） [R5:51名（定員50名）]

(3) グローバル人材育成事業

ア グローバルユースフォーラム

若者が世界に視野を広げ、多様性を尊重する「グローバル人材」への関心を高めることを目的に、国際的に活躍する社会活動家を講師に迎え、「サッカー選手を目指していた僕がネパールで孤児院を運営する社会活動家になるまで」と題し、若き社会活動家の学生時代からネパールで孤児院を運営するまでのお話や、活動を通じてのやりがいや葛藤などをお話いただいた。講師の経緯談や目標等を通して、将来に向けて行動に移すきっかけづくりとした。

＜講師＞竹中 俊 氏（一般社団法人Child Support Organization）

開 催 日	11月23日
参 加 者 数	114名（定員60名） [R5:58名（100名）]

イ グローバルユースカフェ

センターの事業に参加した若者がメンバーとなり、イベントの企画・運営を主体的に行い、若者同士が自由に語り合う場を提供した。令和6年度は「居場所づくり」をテーマに、若者が安心して参加し、語り合い、仲間づくりや情報交換を行える「交流会」を毎月開催した。

開 催 日	企画ミーティング：月2～3回 イベント：6月16日、7月14日、8月4日、9月22日、10月12日、 11月10日、12月8日、 1月19日、2月16日、3月15日、3月23日
参 加 者 数	イベントのみ 延べ324名 [R5:延べ523名]

ウ グローバルユースデー

グローバルに活躍する若者主体の団体交流を通して、日々の活動における課題や悩み等を共有し、解決のヒントを得ることで、参加者自身の活動のステップアップを促す機会とした。

＜講師＞秋田 有加里 氏（愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター）

開 催 日	3月15日
参 加 者 数	13団体 44名（定員10団体程度） [R5:10団体37名（定員10団体程度）]

6 ボランティア制度の運営等

(1) ボランティア制度の管理運営

延べ1,126名[R5:延べ1,099名]が登録し、日本語学習支援、情報の収集提供、通訳・翻訳、文化紹介及び行事運営の協力等の活動を行った。

ア 多文化共生ボランティア	
(ア)	NIC日本語教室ボランティア (48名)
(イ)	情報サービスコーナーボランティア (29名)
a	情報カウンターボランティア (0名)
b	NIC OUT & ABOUT “発見！名古屋” ボランティア (7名) 【主な活動】日本や名古屋地域の文化について、「やさしい日本語」と英語で紹介・解説し、ウェブサイトに掲載した。
c	NIC WALKING GUIDESボランティア (22名) 【主な活動】日本人と外国人の交流を目的としたウォーキングツアーを春と秋に実施した。また、名古屋地域の歴史や観光情報を英語で紹介するガイド資料を作成し、ウェブサイトに掲載した。
(ウ)	ライブラリーボランティア (43名)
a	ライブラリーボランティア (6名)
b	絵本の会ボランティア (37名)
(エ)	ひらがなしんぶんボランティア (3名) 【主な活動】外国人に身近な情報を分かりやすいふりがなつきの日本語で紹介する「なごやひらがなしんぶん」第137号、第138号、第139号を発行した。
(オ)	NIC子ども日本語教室ボランティア (69名)
(カ)	NIC高校生日本語教室ボランティア (44名)
(キ)	語学ボランティア (391名) 【主な活動】外国人住民が言葉のサポートを必要とする生活場面で、通訳、手紙や資料の翻訳を行った。延べ53名（通訳45名、翻訳8名）が活動した。
(ク)	災害語学ボランティア (322名)
(ケ)	留学生サポートボランティア (34名)
(コ)	やさしい日本語ボランティア (12名)
(サ)	ピアサポートボランティア (3名)
イ 異文化理解ボランティア	
(ア)	ホームステイボランティア (35名) 【主な活動】名古屋学院大学の短期留学生12名（米国）のホームステイを受け入れた。また、名古屋と近隣地域でホームステイの受け入れを行う15団体とともにネットワーク組織「名古屋ホームステイボランティアセンター」を運営し、ホームステイの紹介を通して市民レベルの国際交流及び異文化間の相互理解を推進した。
(イ)	事業サポートボランティア (36名)
(ウ)	グローバルユースボランティア (28名)
ウ 国際協力ボランティア	
(ア)	世界寺子屋運動ボランティア (29名)

(2) 災害時外国人支援研修

ア 災害時外国人支援ボランティア研修

能登半島地震後に外国人支援に携わった講師からの話を聞き、災害時の外国人支援のあり方について考えた。また、グループワークを通して、避難所にいる外国人の困りごと等に対して、災害語学ボランティア、区役所職員など参加者それぞれの立場からどのような支援ができるのか話し合った。

＜講師＞柴垣 禎 氏（NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事）

開 催 日	2月26日
参 加 者 数	46名（定員50名） [R5：31名（定員50名）]

イ 災害語学ボランティア研修

災害時におけるセンター及び災害語学ボランティアの役割や基本的な支援活動を学ぶ研修会を実施した。

①ベーシックコース

災害語学ボランティアの役割や基本的な支援活動の流れについて確認した。

②ステップアップコース

災害語学ボランティアとしての通訳時の心得を学ぶほか、ロールプレイを通して避難所での外国人被災者への聞き取り訓練を行い、語学力等のスキルアップを図った。

開 催 日	①6月8日、3月7日 ②9月6日、12月1日
参 加 者 数	延べ108名 [R5:延べ97名]

ウ 名古屋市課長補佐会における災害時外国人支援体制の概要説明

名古屋市防災危機管理局の職員、各区総務課長補佐（防災）が集まる会議において、名古屋市の災害時外国人支援体制や災害語学ボランティアの活動について周知を図るとともに、災害語学ボランティア制度の見直しに係る派遣方法の変更案について説明を行った。

開 催 日	10月18日
参 加 者 数	21名 [R5:18名]

(3) ボランティア研修

登録ボランティアを対象に、当センターの事業内容及び多文化共生について理解を深める研修のほか、ボランティアの種類ごとに活動の心構えや必要な基礎知識、留意点等を学ぶオリエンテーションを実施した。

【研修】①「名古屋に暮らす外国人によるお話会」

②「地域の国際化セミナー」

【オリエンテーション】 各日本語教室、国際協力など

開 催 日	【研修】①8月18日 ②12月14日 【オリエンテーション】各ボランティア活動の初日など
参 加 者 数	【研修】①19名 ②16名 延べ35名 [R5:延べ28名]

7 民間国際交流活動振興事業

(1) 国際交流協力・多文化共生協働事業（共催事業）

ア ～SDGsの未来に、買い物で楽しく国際協力～第8回 フェアトレード・タウンを動かす！若者たちのスピーチ

高校生や大学生を中心とする5団体の若者が、日々の活動や今後の展望についてオンラインで発表し、参加者と交流した。

開催日	6月15日
主催	愛知からフェアトレードの輪をつなげる会
参加者数	20名

イ やさしい日本語劇団2024公開交流会「やさしい日本語と防災～みんなで考える災害時の行動～」

多文化共生社会の共通言語である「やさしい日本語」の普及を目的に、私たちの周りにある「やさしくない日本語」の「あるある」をコントで披露し、「やさしい日本語」を考えるワークショップを開催した。

開催日	8月25日
主催	やさしい日本語劇団
参加者数	36名

ウ 地域日本語教育人材育成研修

この地域における日本語教育の推進を目的に、「日本語教育の参照枠」をもとに「生活 Can do」を主としたカリキュラム設計を学ぶ研修を、日本語教育関係者を対象に開催した。

開催日	11月22日・23日・25日（全3日）
主催	公益社団法人日本語教育学会
参加者数	42名

エ アメリカ大学・大学院 留学フェア2024

アメリカ留学を検討、あるいは関心をもつ市民を対象に、在名古屋米国領事館との協働で、23校の留学生担当者による個別相談対応や留学ガイダンスを実施し、情報提供を行った。

開催日	9月22日
主催	在名古屋米国領事館
参加者数	120名

オ フォーラム「第6回 愛知県で生活する外国人の保健医療アクセスを考える」

調査結果の報告と関係者による情報交換を実施し、現状の改善を考えた。

開催日	3月9日
主催	名古屋市立大学大学院看護学研究科国際保健看護学
参加者数	40名

カ 日本語ボランティア研修

日本語学習支援者や多文化共生の担い手の育成を目的に、在住外国人の現状や課題等、「開かれた地域社会をめざして」をテーマに研修を実施した。

開催日	4月13日、5月11日、6月8日、7月13日、9月14日、10月12日、1月11日、2月8日、3月8日
主催	東海日本語ネットワーク
参加者数	延べ287名

(2) 団体資料の配架

ライブラリーに全国の民間国際交流・国際協力団体が発行するニュースレターや事業報告書を配架し、情報カウンターやライブラリーが閲覧しやすいように配架し各団体の活動への市民の理解を促した。

(3) 交流室の提供

民間国際交流団体はじめ各世代の市民がミーティングや交流等に使用できる活動の場を提供した。

(4) 事業の企画・実施支援

地域の NGO/NPO やボランティア団体が実施する事業の趣旨に賛同し、後援名義の使用を承認した（後援 13 件）ほか、以下の団体・機関による事業の企画・運営・広報への助言・協力を行った。

団体・機関	アマノ芸術創造センター名古屋、名古屋市西文化小劇場、公益社団法人中部日本書道会、NHK名古屋放送局
-------	---

8 外国人市民の暮らしやすいまちづくり事業

(1) 多文化共生まちづくり事業

国籍問わず多様な住民の主体的な地域社会への参画や「顔の見える」関係づくりを促すため、地域の要請に応じて支援を行うほか、名古屋市中村区社会福祉協議会 名古屋市中区社会福祉協議会の地域福祉活動計画の事業実施に協力した。

(2) 外国人防災啓発事業

ア 日本語教室等における防災啓発

(ア) 防災出前講座@NIC 日本語教室

NIC 日本語教室の学習者対象に、災害時における自分の命の守り方や、非常持出袋について学ぶ講座を「やさしい日本語」で実施した（各日 2 回実施）。

開催日	①7月7日 ②10月6日 ③3月9日
参加者数	①67名 ②84名 ③56名
会場	名古屋国際センター

(イ) 防災出前講座@瑞穂日本語の会

防災に関心のある市民を対象に、外国人が避難の際に直面する困難や置かれる状況を具体的な事例をもとに紹介し、地域における多文化防災に役立つ講座を実施した。

開催日	10月26日
参加者数	20名
会場	弥富コミュニティセンター（瑞穂区）

(ウ) 防災サロン

外国人住民を対象に、地震や災害情報について知ってもらう講座をやさしい日本語で開催した。（協力：NHK 名古屋放送局）

開催日	2月8日
参加者数	17名
会場	名古屋国際センター

イ なごや市民総ぐるみ防災訓練への参加

「なごや市民総ぐるみ防災訓練」重点区の訓練に参加し、NIC 外国人防災サポーターによる避難所受付訓練を実施する。また、災害語学ボランティアと外国人住民が共に陸上自衛隊や日本赤十字社等のブース訓練に参加し、外国人住民と災害語学ボランティアの訓練の機会とする。

開催予定日	9月1日（台風接近に伴い中止）
参加者数	—
会場	真宗大谷派名古屋別院（東別院）（中区）

ウ 地域における合同訓練の実施

「避難所設営体験学習」に参加し、中学生を対象に、地域防災における多文化共生の視点を説明・啓発に努めた。

開催日	11月27日
参加者数	12名
会場	市立吉根中学校（守山区）

(3) NIC 外国人防災サポーター制度の運営・養成

センターの事業や地域の防災イベントに出向いて防災啓発を行うとともに、そうした外国人人材を養成するために、防災・減災に関する研修等に参加し知識向上に努めた。

活動日・内容	8月24日 防災サポーター座談会はじめ 計4回
活動人数	延べ8名 [R5:延べ10名]
研修受講日	2月26日
登録者数	9名（フィリピン、ブラジル、ペルー、ネパール、中国、韓国、ベトナム(2名)、ウクライナ）

(4) 災害時外国人支援に備えた地域・広域における連携

ア 東海北陸地域の地域国際化協会との連携

「災害予防対策研修会」

東海北陸地域国際化協会連絡協議会主催の研修会で、災害時の外国人支援活動に向けた研修に参加した。

開催日	7月24日
-----	-------

イ 災害ボランティア団体との協力

「なごや災害ボランティア連絡会」への参加

同連絡会の構成団体として月例会（オンライン）に参加し、災害ボランティア団体をはじめ関係機関・団体とのネットワーク形成に努めた。12回

開催日	原則毎月第1木曜日
件数	12回

(5) NIC 日本語教室の運営

名古屋及び周辺地域の在住外国人を対象に、基本的な日本語の習得と生活情報の提供を目的とした講座をボランティアの協力により毎週日曜日に開講した。

開催日	第1期：5月19日～7月21日（10回） 第2期：9月15日～11月17日（10回） 第3期：1月12日～3月23日（10回）
参加者数	延べ1,520名（面接日等を含む） [R5:延べ1,369名]

(6) NIC 子ども日本語教室

ボランティアの協力により、小学校低学年、小学校高学年、中学生の3グループに分かれて教室を開催した。

開催日	第1期：5月19日～7月21日（10回） 夏休み：7月24日～8月28日（10回） 第2期：9月15日～11月17日（10回） 第3期：1月12日～3月23日（10回）
参加者数	延べ1,815名（面接日等を含む） [R5:延べ1,552名]

(7) NIC 高校生日本語教室の運営

高校在学中または義務教育年齢を超えて高校進学を目指す外国人生徒を対象に、「NIC 高校生日本語教室」を開催し、生活言語に加え、教科学習に必要な学習言語を指導した。

開催日	第1期：5月19日～7月21日（10回） 夏休み：7月28日、8月4日・10日・18日・25日（5回） 第2期：9月15日～11月17日（10回） 第3期：1月12日～3月23日（10回）
参加者数	延べ553名（面接日等を含む） [R5:延べ728名]

(8) キャリア支援プログラム

外国につながりをもつ若者向けに、先輩の体験談を聞く機会や将来について同世代と情報共有する場を設けることで、自分のキャリア形成について考えるきっかけを提供した。

開催日	「大学展に行こう！」9月15日 「ライフプランを考えよう！」11月17日 「先輩の話进行こう！」2月16日
参加者数	延べ28名

(9) 市内日本語教室との協働

市内の日本語教室に、定期的に情報を発信するとともに、地域日本語教育コーディネーターが各教室を訪問し、現状把握や課題のヒアリングを行った。

件数	75件 [R5:70件]
----	--------------

(10) 日本語学習者・支援者サポートデスク

学習希望者には、教室に関する情報提供や、学習方法などの助言を行った。また、ボランティア希望者には、教室活動や運営等に関する助言、さらに必要に応じて地域日本語教育コーディネーターを派遣し、課題解決に向けたサポートを行った。

開催日	毎月第2土曜日（午前10時～正午）及び日本語教室申込日やイベント等への出張相談
件数	88件（113名） [R5:70件（82名）]
対応方法	来館、電話、オンライン等

(11) 外国人児童・生徒サポーター研修

外国人の子どもへの支援に関心のある人または携わっている人を対象に、支援する際の心構えや知識・スキルを講義やワークショップを通して学ぶ講座を実施した。

①入門編：活動初心者を対象に、外国人児童生徒の状況や様々な取り組みについて知るとともに、当事者の経験談を通して子どもや保護者に対して自分ができる関わり方を考えた。

②実践編：すでに支援活動を行っている人を対象に、文化間移動をする子どもの学びの現状や課題について、講師による基調講演をはじめ、講師と実践者による対談、グループワークを実施し、より良い支援のあり方について考えた。

開催日	①入門編：6月16日・30日、7月14日（全3回） ②実践編：11月9日
参加者数	①60名（定員40名） [R5:55名（定員40名）] ②51名（定員50名） [R5:46名（定員40名）]

(12) 多文化子ども支援者のネットワーキング

外国につながる子どもの学びを支える個人及び様々なセクターとのネットワークを構築し、支援に関心のある人または携わっている人同士が情報交換できる場を設けた。

開催日	①5月19日(オンライン)、②7月14日(対面)、 ③9月22日(オンライン)、④1月26日(オンライン)
参加者数	①5名 ②54名 ③6名 ④8名 延べ73名 [R5:延べ70名]

(13) やさしい日本語普及啓発事業

ア 「やさしい日本語」講座等の実施

地域住民等を対象に、「やさしい日本語」の必要性や考え方、外国人とのコミュニケーションにおける有用性をわかりやすく伝える講座やワークショップを実施した。

開催日	①4月21日 守山図書館 ②5月25日 守山生涯学習センター ③10月5日 港文化小劇場 ④11月20日 白山中ブロック教員研修 ⑤3月8日 仙台防災未来フォーラム2025
参加者数	①26名 ②13名 ③23名 ④80名 ⑤62名 延べ204名 [R5:延べ153名]

イ 「やさしい日本語」での情報発信及び作成物の活用

平時の生活情報に加え、ウェブサイト等で災害に関する情報を「やさしい日本語」で発信した。また、防災フェスタなどで、「やさしい日本語カルタ」を活用したワークショップを実施した。

ウ 「やさしい日本語」の活用サポート

「やさしい日本語」による情報発信に取り組む団体・機関に対して助言を行った。

(14) 地域日本語教育コーディネーター事業

外国人市民が地域のコミュニティで円滑に生活できるよう、日常生活に必要な日本語を習得するための日本語教育の体制づくりを行った。

ア 総括コーディネーターの配置

市内の地域日本語教育に精通し、事業の企画等を総括コーディネートする者を常駐職員として配置した。

イ 地域日本語教育コーディネーターの設置

文化庁主催「地域日本語教育コーディネーター研修」の修了者または地域日本語教育活動で豊富な経験者4名を新たに4区毎のエリアに配置し、地域日本語教室の相談・サポート体制を強化した。また、地域日本語教育の推進に係る実務経験を有する者を運営管理事務員(兼務)として1名配置した。

ウ コーディネーター会議の実施

すべてのコーディネーターが参加する定例会議を開催し、取組内容等への相互助言、既存の日本語教室を対象とする研修等の支援策の検討、各種情報交換等を行った。

開催回数	19回 [R5:19回]
------	--------------

エ 名古屋市内の日本語教室サーチ「なごにほ」の運用・普及

名古屋市内のボランティア日本語教室を11言語で紹介するとともに、イベントのお知らせや教室紹介ができるページを追加し、内容の充実を図った。また、利用者のニーズを踏まえ、キーワードやボランティア募集中の教室、所在区による検索が可能な機能を追加し、利便性を高めた。

対応言語	日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語（計11言語）
掲載教室数	47教室 [R5:41教室]

オ 普及啓発事業

広く一般市民を対象に地域日本語教育の総合的な体制づくりの説明や、在住外国人や地域の日本語教室に関心を寄せてもらうことを目的として、トークショーや大学での講義を実施した。また、ボランティア活動の参加を促すため、名古屋市の体制整備事業の説明やボランティア日本語教室の紹介、リーフレットを作成し参加者等に配布した。

①村雨辰剛トークショー 「にほんごでつながろう」

地域日本語教育普及啓発 ～だれもが暮らしやすい まちをめざして～
タレントの村雨辰剛氏をゲストにお迎えし、来日時の自身の経験談や多文化共生社会実現に向けて、エシカル・ペネロプ株式会社代表取締役の原田さとみ氏を聞き手としたトークショーを実施した。

開催日	10月14日
参加者数	202名

②名城大学ゼミ生への講演「多文化共生のまちづくりと地域日本語教育」

地域日本語教育に関心のある学生を対象に、日本語教室の現場やボランティアの役割、活動の紹介などを行い、関心を高めた。

開催日	10月24日
参加者数	13名

カ 地域日本語教室のコーディネート

地域における課題解決のため、地域日本語教育コーディネーターを派遣し、スポーツ市民局や名古屋市教育委員会、名古屋市住宅供給公社などと協働し、地域日本語教育の体制づくりを進めた。

内 容	①ボランティア講座および教室立ち上げサポート実施 2件 ・ 守山生涯学習センター ・ 守山図書館 ②市内の地域日本語教室（全47教室）へのヒアリング（75件） ・ 学習希望者やボランティア希望者に対する相談対応 ・ 守山にほんごだいすき、なごもり（守山）など新規立ち上げ教室のフォローアップ（守山区） ・ みなみ文化日本語教室（南区）など既存教室の運営サポート ・ 学生インターンシップ、ボランティア派遣のフォローアップ
-----	---

9 調査研究事業

（1）地域の国際化推進に係る調査・分析・提案

外国人市民を対象とする情報提供・発信等におけるセンターの効率的・効果的な広報活動に資することを目的に、「外国人市民の生活情報収集などに関する調査（プリサベイ）」を行った。

10 多文化共生推進月間（8月）に併せた事業

（1）絵本のひろば【再掲】

（1 情報収集提供事業（2）ライブラリーの運営 エ ライブラリー特別企画）

（2）ライブラリー子ども企画【再掲】

（1 情報収集提供事業（2）ライブラリーの運営 エ ライブラリー特別企画）

（3）名古屋に暮らす外国人によるお話会

外国人住民から母国の文化や日本での暮らしについて話を聞き、多様な文化をもつ人々とともにある日々の暮らしの中で自分にできること、多文化共生を進めるために必要なことを考える講座を開催した。ともにウクライナ出身の避難民と長期日本在住者が講師となり、避難当時の心境や今の思いについて語る対談のほか、ウクライナの国紹介や文化体験ワークショップを行った。

開 催 日	8月18日
参 加 者 数	57名（定員50名）[R5:40名（定員50名）]

施設管理運営業務

名古屋市との管理運営協定に基づき、公の施設である「名古屋国際センター」の指定管理者として、貸し施設（ホール、展示室、会議室、研修室、和室）の供用及び施設の維持管理等を行った。ホール（平日）及び和室の料金の 30%値下げや「ホール設営サポーター制度」を引き続き行い、利用率の向上に努めるとともに、平成 27 年度から導入した「インターネット予約システム」の利用者 ID 登録の普及を進めた。

また、有線 LAN を全施設に設置しているほか、施設の利便性向上のため、第一会議室及び各研修室へのプロジェクター及び音響設備の更新など施設整備を進めた。

更に、当施設の認知度向上のため、全国規模の貸し施設ポータルサイト等にて広く周知した。

施設別利用率【日数ベース（ ）内は区分ベース】

施設名	利用率
ホ ール	55.2 (41.6) %
会 議 室 (6)	83.7 (56.5) %
第一会議室	73.9 (54.4) %
第二会議室	87.4 (58.8) %
第三会議室	91.0 (61.6) %
第四会議室	78.4 (52.2) %
第五会議室	88.5 (57.4) %
第六会議室	82.9 (54.4) %
和 室	32.2 (20.3) %

施設名	利用率
展 示 室 (3)	47.3 (37.7) %
第一展示室	51.8 (39.6) %
第二展示室	44.5 (39.1) %
第三展示室	45.7 (34.3) %
研 修 室 (3)	88.2 (62.3) %
第一研修室	83.2 (58.5) %
第二研修室	87.7 (60.4) %
第三研修室	93.8 (67.9) %
計	71.2 (50.0) % [前年度：70.2 (50.4) %]

Ⅱ 自主事業

1 “世界寺子屋運動”名古屋実行委員会事務局の運営

(1) “世界寺子屋運動”書き損じはがきキャンペーンの推進

センターの国際協力ボランティアの協力により、書き損じはがきの回収、整理、資金化を行った。団体からの大口の寄付については贈呈式を開催した。また、広報拡充のため、「ワールド・コラボ・フェスタ 2024」にブース出展し、支援の必要性と方法を展示物やワークショップを通して、貧困や児童労働等の世界の課題の周知に努めた。

書き損じはがき回収・ 整理済み枚数	102,772 枚（累計 5,166,726 枚）
----------------------	---------------------------

(2) 世界寺子屋運動推進協力会議の運営

協力団体に各々の広報誌・機関紙等に PR 記事を掲載してもらうなど、書き損じはがきキャンペーン推進のための協力を呼び掛けた。

(3) “世界寺子屋運動”第 36 次支援への参加

(公社)日本ユネスコ協会連盟が行う“世界寺子屋運動”の第 36 次支援先であるカンボジア、ネパール、アフガニスタン、ミャンマーの 4 か国 4 団体の識字プロジェクトを支援した。

(4) “世界寺子屋運動”活動報告会

「第 95 回愛知県中央メーデー」及び「ワールド・コラボ・フェスタ 2024」にブース出展し、パネルや写真の展示により、支援各国における最新活動報告を行ったほか、センターのウェブサイトには報告記事を掲載した。

(5) “世界寺子屋運動”カンボジアスタディツアー

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の協力のもと、支援先のひとつであるカンボジアへのスタディツアーを実施した。寺子屋の現状視察を行うとともに、現地の人々との交流を深めた。

日 程	11月26日～11月30日
参加者数	9名（推進協力会議委員5名、国際協力ボランティア2名、事務局2名）
訪 問 先 及び 視察内容	カンボジア（シェムリアップ州） ①スニョオル寺子屋：中学生授業視察、学習者の家庭訪問 ②チョンクニア寺子屋：収入向上プログラム修了者のかご製作視察

2 NIC 国際講演会

村雨辰剛トークショー 「にほんごでつながろう」

地域日本語教育普及啓発 ～だれもが暮らしやすい まちをめざして～【再掲】

(Ⅰ 指定管理事業 8 外国人市民の暮らしやすいまちづくり事業

(14) 地域日本語教育コーディネート事業 オ 普及啓発事業)

3 ワールド・コラボ・フェスタへの参加

国際交流、国際協力、多文化共生をテーマとする「ワールド・コラボ・フェスタ 2024」において、ブース出展「はがき 1 枚からできる国際協力“世界寺子屋運動”」を行い、パネル展示やワークショップを通して、地球の課題（教育や貧困等）について学ぶ機会を提供した。また、名古屋国際センター40 周年を記念ファイル等の配布と合わせて周知した。

開催日	10月26日・27日
会場	オアシス21
参加者数	1,006名

4 第39回外国人芸術作品展（共催事業）

外国人ボランティアグループ CJIS との共催により、プロ・アマ問わず、中部地域で活動する 17 か国 52 名の外国人芸術家が作品を発表する展覧会を開催し、芸術を通じた国際交流の場を設けた。

開催日	10月29日～11月3日
参加者数	延べ649名（うち外国人309名） [R5:延べ778名（うち外国人360名）]
主催	セントラル・ジャパン・インターナショナル・ソサエティ（CJIS）

5 大学との連携・協力事業

（1）愛知大学との連携・協力事業

ア 連携講座

同大学の教養課程において「現場の視点で考える国際協力、国際交流、多文化共生」をテーマとした講座（後期）を実施した。

開催日	9月24日、10月1日・8日・15日・22日・29日、 11月12日・19日・26日、12月3日
受講者数	40名
会場	愛知大学

（2）名古屋市立大学との連携・協力事業

ア 連携講座

同大学の地域特色科目「多文化共生と国際貢献」において、国際交流・国際協力・多文化共生等の課題について、その現状や問題の所在、今後の方向性等を座学やワークショップを通して解説することにより、日本や地域の国際化について考える機会を提供した（全 15 回）。

開催日	4月12日・19日・26日、5月10日・17日・24日・31日 6月7日・14日・21日・28日、7月5日・12日・19日・26日
受講者数	40名
会場	名古屋市立大学 滝子キャンパス

イ インターンの受入れ

名古屋市立大学の学生を 3 名（長期 2 名、短期 1 名）受け入れた。

6 国際的施設誘致事業

名古屋の国際化を推進するため、国際連合地域開発センター（UNCRD）はじめ国際機関を受け入れた。

7 賛助会員制度の運営

センターの趣旨に賛同し、事業及び運営への支援をいただける個人・団体を募った。新規入会の記念品として、フェアトレード製品を準備する等、賛助会員の獲得に努めた。

会 費 (1口 年額)	①団体会員50,000円 ②個人正会員5,000円 ③個人学生会員1,500円
会員期間	①入会の翌月から1年間 ②③入会時期により当該年度末または次年度末まで
会 員 数	①45団体 ②40名 ③2名

8 事業紹介動画のウェブサイトへの掲載

センターのウェブサイトには事業概要を紹介する動画を掲載し、市民の関心を高めるとともに、事業への参加を促した。

また、外国人市民へのアクセシビリティを高めるため、英語音声/字幕版と10言語の多言語字幕版の動画を作成した。

9 財団設立40周年記念事業【臨時】

(1) 村雨辰剛トークショー 「にほんごでつながろう」

地域日本語教育普及啓発 ～だれもが暮らしやすい まちをめざして～【再掲】

(I 指定管理事業 8外国人市民の暮らしやすいまちづくり事業

(14) 地域日本語教育コーディネート事業 オ 普及啓発事業)

(2) グローバルユースフォーラム【再掲】

(I 指定管理事業 5国際交流・協力事業 (3) グローバル人材育成事業
ア グローバルユースフォーラム)

(3) 地域の国際化セミナー【再掲】

(I 指定管理事業 4研修事業 (2) 地域の国際化セミナー)

(4) 広報等

40周年を広く周知するため、新聞に広告を掲載したほか、ノベルティ（クリアファイル、布製ポーチ、付箋）を作成し、各事業を通じて配布した。

Ⅲ 国際留学生会館事業

1 宿泊事業

(1) 入居者の募集及び選考

愛知県内の大学等に在籍する外国人留学生から入居者を募集し、入居者選考委員会による選考を経て、134名（26か国・1地域、14大学）[R5:124名（22か国・1地域、15大学）]の留学生及び日本人チューターに宿泊施設を提供した。

(2) オリエンテーション等の実施

入居と退去の際に必要な生活知識を紹介するオリエンテーションを年2回（春期・秋期の入居時）開催した。オリエンテーションに併せて、春期は市内バスツアー、秋期は消火・避難訓練を含む消防・防災訓練を実施した。

(3) 歓迎会等の実施

春期・秋期の入居時に年2回、入居の留学生相互及び地域社会との親睦交流を図る歓迎会を開催した。

2 研修事業

(1) 講座

日本文化理解講座

日本の伝統文化に触れる機会を提供する華道・茶道の講座を会館在住の留学生のみを対象に開催した。

開 催 日	①生け花：5月19日～6月23日（全6回） ②お 茶：10月7日～11月25日（全6回）
参 加 者 数	①14名（定員12名） ②3名（定員12名） 延べ17名 [R5:延べ14名]
共 催	国際留学生会館在住の留学生を支援する会

(2) 日本文化紹介事業

着物を通して、日本の伝統文化への理解をより深めるため、ゆかた着付け体験会等を開催した。

開 催 日	①ゆかた着付け体験会：7月13日 ②十 二 単 体 験 会：12月7日
参 加 者 数	①18名（定員20名） ②16名（定員20名） 延べ34名 [R5:延べ29名]
共 催	国際留学生会館在住の留学生を支援する会

3 就職支援事業

日本での就職を希望する留学生(学部3年・修士1年)を対象に、就職活動段階に応じた研修を体系的に実施した。また、就活に苦戦している留学生（学部4年・修士2年）を対象に苦戦者編（個別相談）も実施した。

研修内容及び 開 催 日	①就活ガイダンス：6月1日 「夏のインターンシップ・就活の進め方」 ②テーマ別相談会：6月15日
-----------------	--

	「自分の売り、やりたいこと」「企業の調べ方・選び方」 ③セミナー「エントリーシート・履歴書の戦略的な書き方」：6月22日 ④グループディスカッション訓練：6月29日 ⑤各種面接対策講座及び弱点の克服：11月19日 ⑥模擬面接訓練：12月14日、1月11日 ⑦個別相談会【苦戦者編】：7月9日・13日・20日
参加者数	①12名（定員50名） ②9名（定員50名） ③10名（定員50名） ④5名（定員50名） ⑤10名（定員50名） ⑥9名（定員16名） ⑦7名（定員8名） 延べ62名 [R5:延べ117名]

4 情報提供・相談事業

（1）各種情報提供・相談

留学生の学業及び生活を支援するために、奨学金やアルバイト、日本語学習等の情報提供と学業・生活上の各種相談を行った。

5 交流事業

（1）日本人向け講座の実施

愛知県内在住・在勤（在学）の日本人を対象に、次の講座を開催した。

ア 外国語講座

留学生を講師とする外国語講座を開催し、留学生と県民・市民との交流の場を提供した。その他、国際留学生会館在住の留学生を支援する会主催の外国語講座（ベトナム語・英語）を共催した。

講座内容及び開催日	①前期・英語初級会話：5月13日～6月17日（全6回） ②前期・ベトナム語会話入門：5月15日～6月19日（全6回） ③後期・中国語会話入門：10月23日～11月27日（全6回） ④後期・英語初級会話：10月25日～11月29日（全6回） ⑤冬期・ベトナム語会話入門：2月19日～3月12日（全4回） ⑥冬期・英語初級会話：2月21日～3月14日（全4回）
参加者数	①19名（定員40名）②8名（定員40名）③16名（定員40名） ④19名（定員40名）⑤12名（定員40名）⑥8名（定員40名） 延べ82名【R5:延べ189名】
共催	国際留学生会館在住の留学生を支援する会

（2）登録ボランティア制度の活用

ア 交流サポートボランティア（20名登録）

留学生の日常生活を支援し、日本文化紹介、文化交流会等の様々な行事を企画・開催した。

イ 日本語サポートボランティア（14名登録）

「入門」、「初級」、「中級」、「日本語検定対策」「ビジネス日本語」の日本語学習会を、留学生を対象に毎週土曜日に開催した。

(3) 地域住民等との交流

愛知県内の団体や地域住民からの要望により、会館在住の留学生と市民との相互理解を深める交流を行った。令和6年度は、延べ2,856名（うち留学生444名）[R5:延べ2,159名（うち留学生453名）]が参加した。

主な事業及び 開催日	①留学生による生け花展覧会：6月22日 ②名古屋文化学園保育専門学校との交流会：6月29日 ③名古屋市多文化共生月間「世界のみんなと盆踊り」への参加（練習及び本番）：8月9日・17日 ④港生涯学習センター「みんなでわいわい料理教室」への参加：11月2日、12月7日 ⑤外国語講座受講者との交流会：12月4日 ⑥国際留学生会館フェアウェルパーティー：2月27日
参加者数	①70名（10名） ②15名（4名） ③180名（4名） ④37名（4名） ⑤22名（6名） ⑥65名（23名） ※（ ）は留学生の内数

6 地域・社会貢献事業

(1) 地域貢献促進事業

在館留学生が一地域住民として地域の各種行事に参加する機会を提供した。令和6年度は13件、延べ37名[R5:15件、延べ70名]の参加があった。

主な事業及び 開催日	①港区女性会「演芸会」への出演：7月12日 ②港楽学区第3町内会「子供神輿」訪問及び練り歩き：7月15日 ③港楽学区盆踊りへの参加：8月3日 ④西築地学区「地藏盆おどり」への参加：8月17日 ⑤港区区民まつり（ブース出展・ステージ出演）：11月3日 ⑥中川運河「れいんぼーかだん」の花の植え替え：11月12日 ⑦港楽学区防災訓練への参加：1月26日
参加者数	①1名 ②3名 ③4名 ④3名 ⑤6名 ⑥3名 ⑦5名

(2) 社会貢献促進事業

在館留学生が留学生としての資質や能力を活かして広く社会に貢献する機会を提供した。令和6年度は27件、延べ48名[R5:29件、延べ78名]の参加があった。

主な事業及び 開催日	①西築地小学校トワイライトスクール（講師）：4月～12月 ②港楽小学校トワイライトスクール（講師）：5月～12月 ③日韓交流いけばな展への出展（韓国領事館主催）：6月21・22日 ④名古屋駅展望施設のノベルティアイデアを考える企画への参加：6月～7月 ⑤名古屋国税局「留学生による酒蔵見学プロジェクト」への参加：11月30日 ⑥アジア・アジパラ競技大会にむけての愛知県内学校向け学習教材（動画）の講師：1月中下旬 ⑦外国人向け「認知症サポーター養成講座」への参加：3月15日
参加者数	①1名 ②1名 ③4名 ④3名 ⑤13名 ⑥1名 ⑦3名

(3) 名古屋国際センター「災害語学ボランティア」への登録

在館留学生 27 名 [R5:42 名]が名古屋国際センターの「災害語学ボランティア」に登録した。

7 会館元入居者のネットワーク化促進事業

会館の元入居留学生が留学中に深めた交流の絆を維持し、将来的に経済・文化の両面において、本国と日本や愛知・名古屋との友好関係、愛知・名古屋の国際化等へのより積極的な寄与に繋げられる仕組みづくりに努めた。

(1) メールマガジンの送信及び現状調査

送信を希望する現入居者及び元入居者に対して、年間 4 回（7 月・11 月・1 月・3 月）、メールマガジン（日・英）を送信するとともに、近況報告を依頼した。

送信件数	1,144 件 [R5:1,071 件]
送信国数	64 か国 1 地域 [R5:63 か国 1 地域]

(2) フェイスブック公式ページの運用

会館の現入居者や元入居者の近況報告や情報交換のため、会館のフェイスブックの運用を行った。登録者数は 296 名 [R5:297 名]。

(3) ゲストルームの運用

会館入居留学生の家族や元入居者が来名した際の宿泊スペースとして、ゲストルームの運用を行った。

8 国際留学生会館の維持管理等

国際留学生会館の施設の維持管理を行った。

役員会等に関する事項

1 評議員会の開催

- | | |
|-------------------|--|
| 第1回評議員会
(書面表決) | 表決日：2024年4月1日
議案：理事長の報酬額の決定
専務理事の報酬額の決定 |
| 第2回評議員会 | 開催日：2024年6月19日
議案：令和5年度決算
役員の退任及び選任 |
| 第3回評議員会 | 開催日：2025年3月11日
議案：理事長の業績評価及び報酬額の決定
専務理事の業績評価及び報酬額の決定 |

2 理事会の開催

- | | |
|------------------|---|
| 第1回理事会
(書面表決) | 表決日：2024年4月1日
議案：理事長・副理事長の解職
理事長・副理事長・専務理事の選定
令和6年度第1回評議員会の開催 |
| 第2回理事会 | 開催日：2024年6月4日
議案：令和5年度事業報告及び決算
令和6年度第2回評議員会の開催 |
| 第3回理事会 | 開催日：2025年2月20日
議案：令和7年度事業計画
「第4次経営戦略計画」成果指標の変更
令和6年度第3回評議員会の開催 |